

《修士論文要旨》

## 「常用漢字表」の字体に関する問題点

\* 柳 生 秀 俊

「常用漢字表」は一九八一（昭和五十六）年三月に国語審議会によって答申され、同年の十月に公布された。社会生活上の使用の目安として一九四五字の漢字が選ばれたが、その中には字体が簡略化された漢字が多数存在する。

例えば、「国」の旧字体が「國」であることや、「沢」の旧字体が「澤」であることは一般的に多くの人に知られていることと思われるが、「斤」の旧字体が「斤」であることや、「器」の旧字体が「器」であることを知っている人はあまりいないように思われる。さらに、「専」「伝」「軛」「団」の旧字体がそれぞれ「専」「傳」「轉」「團」であり、四字に「專」という共通点があるということを知っている人は一層少ないと思われる。しかし、このような繋りは漢字をより深く理解するために必要不可欠であり、「專」を共通点とする漢字は字体が簡略化されたことにより、その繋りが分からなくなってしまった漢字である。「專」という共通点は字形上の共通点であるだけでなく、音韻上の共通点でもある。「團」は「專」「傳」「轉」と比べると音韻上の共通点が分かりにくいかもしれないが、「專」を音とする漢字に

「樽」（屋根の棟木の意）や「搏」（丸める或いは集める意）があることを説明すれば「團」が「專」を音としていることが分かりやすくなる。

このように、旧字体では共通点を見出すことができても、簡略化された字体ではその共通点を見出すことができなくなった漢字がある。これは省略された漢字における一つの問題点であるということができ

る。  
本論で取り上げた漢字は以下の通りである。必要な場合には人名用漢字や表外漢字も適宜参照した。

一、「常用漢字表」内或いは人名用漢字との間において、字の一部分が簡略化された漢字とその一部分が簡略化されていない漢字が混在しているもの

「蜀」を字の一部とするもの（濁独触）

「弗」を字の一部とするもの（沸費仏払）

「龍」を字の一部とするもの（襲滝竜）

- 「縣」を字の一部とするもの (懸県)  
 「有」を字の一部とするもの (情随隨體)  
 「康」を字の一部とするもの (劇提)  
 「爾」を字の一部とするもの (重爾弥)  
 「段」を字の一部とするもの (暇霞飯)  
 「攸」を字の一部とするもの (修悠脩条)  
 「卒」を字の一部とするもの (翠碎粹)  
 「至」を字の一部とするもの (勁徑莖莖輕)  
 「黃」を字の一部とするもの (横広鉞拈)  
 「孰」を字の一部とするもの (勢熟云)  
 「白」を字の一部とするもの (濁写兎旧陷稻)
- 二、音韻上の共通点を表す部分が簡略化されたことにより、共通点を  
 持つ他の漢字との繋がりが分からなくなったものや、他の音韻上の共  
 通点を表す部分との間に問題が生じているもの
- 「段」と「反」について (暇霞飯 / 反坂板版返飯)  
 「弗」「ム」「弘」「広」「黄」について (沸費弘仏佛髯 / 私私弘 / 弘私  
 強 / 広広宏 / 黄横広鉞拈)  
 「孰」「云」「寸」「專」「專」「甫」について (勢熟褻去 / 芸云耘雲魂 /  
 伝転樽樽樽團 / 付村 / 専博敷縛薄薄 / 甫捕浦鋪補補浦)  
 「至」と「至」について (勁莖莖莖莖莖莖 / 怪)  
 「東」と「東」について (練練煉諫蘭蘭蘭 / 東凍棟)

- 「緝」と「亦」について (樂駕巫響響響響響 / 亦奕迹跡)  
 「尙」について (尚敵淌掌賞賞賞賞賞賞)  
 「與」について (与举眷嶼歟)  
 「學」と「焚」について (学覚 / 荣蛍螢)  
 「麻」と「林」について (麻摩磨魔癡 / 林彬琳琳)  
 「替」「替」「賈」について (替 / 潜潛替蚤 / 賈讀讀)  
 「𠂔」「𠂔」「𠂔」について (札扎 / 札體體體 / 𠂔𠂔)  
 「壬」「壬」と「壬」「壬」について (壬任妊 / 呈程廷庭聖)  
 「匕」「匕」「匕」と「匕」「匕」について (匕旨尼 / 化花貨叱 / 叱七  
 切)  
 「市」「市」「市」「市」「市」「市」について (市岡 / 柿柿柿  
 第 / 柿柿柿柿 / 市裕)  
 「賣」「賣」と「賣」「賣」について (売 / 続読讀讀)